

「シジュウカラの営巣(6)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

北軽井沢の市街地から数キロ離れた私の山荘は、裏庭が草原になっていて、その周囲を針葉樹と広葉樹の混交林に囲まれている。シジュウカラの主な餌である、昆虫類(チョウやガの幼虫、クモ類、バッタ類)が豊富で、営巣・子育てには最適な環境である。



巣箱は裏庭にある物置(多客期はバンガローになる)の壁面に設置してある。都会でも山の中でも、シジュウカラやヤマガラのような「樹洞性営巣」の鳥類は、慢性的な「住宅難」なので、こんな家屋の近くでも、ほぼ100%営巣する。



昨年もシジュウカラが営巣したのだが、孵化1週間後にすべてへびに飲まれてしまった。へびは強力な背筋力を有するが、さすがに垂直な壁は登れない。しかし、写真のように電源ケーブルとLANケーブルが斜

めに張ってあったため、そこを登ってきたのである。巣箱の中を観察するために設置したケーブルで、へびの害に遭ったことになる。左下の写真の赤い半円は、へびの禁忌剤を播いた範囲である。これも役に立たなかった。



今回は、ケーブル類を完全に壁に固定し、凹凸がないように強力なテープで覆った。更にその上に、シリコン剤を塗布して、へびが滑って登りにくいように、万全を期してある。



へびは付近の樹木の枝を伝って、上部から侵入する場合もある。写真はアオダイショウの子どもが、巣をかけたとなりの木から飛び移って、巣に侵入した時の写真だ。アオダイショウは大人になると、名の通り緑を帯びた大蛇になる。小さいうちは体に模様があり、マムシとよく似ている。アオダイショウは無毒だが、マムシは猛毒なので、一種の擬態かもしれない。大人のアオダイショウは、小さな巣口からは入れないが、子どもは簡単に入出入りできる。抵抗しないシジュウカラのヒナは、格好の餌食である。